

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第38回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

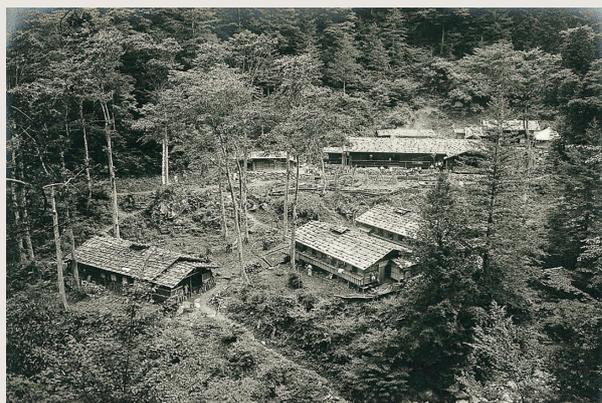
「裏木曾」その二

江戸時代の出ノ小路大材伐出

裏木曾では室町時代の頃から大材を伐出した記録がありますが、歴史的にも特に重要な事例として一八三八年（天保九年）、出ノ小路（現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）での大材伐出が挙げられます。



出ノ小路大材伐出時の陣屋（役人の小屋）の様子
（『付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解』より）

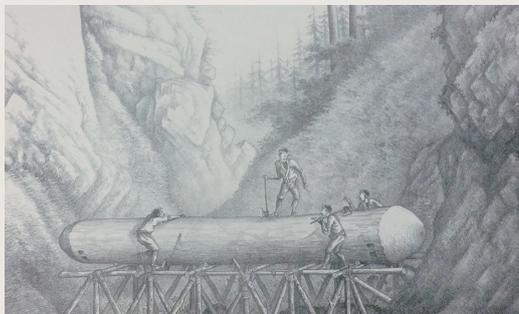


昭和16年、出ノ小路事業所の様子
（現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）

これは大火で焼失した江戸城西の丸の再建の管理に苦勞していた尾張藩にも莫大な献木と献金が強いられることとなりました。幕府と尾張藩の役人が豊かな山林として知られる出ノ小路に大勢派遣され、住民も動員して行うことになった大事業は、この地で資源面でも感情面でも大きな問題を起こし、後に木曾山林の総鎮守となる護山神社の建立にも繋がることになります。

大規模な伐出事業の様子は絵図としても残され、人力と斜面と水の流れを利用した当時の伐木運材の風景を垣間見ることが出来ます。幾つもの関連資料が作られています。これらで描かれている木のサイズには大変大きなものもあり、実際よりもデフォルメされているのかどうかは意見が分かれるところです。

「上絵図」出ノ小路大材伐出の絵図を元に明治前期に作られたリトグラフ（石版画）



「下写真」昭和二十年代頃の伐採の様子（現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを讀み込んでください。

